



## アメリカ

### ピックアップトラックの隠れた危険

● CRホームページ <https://www.consumerreports.org/car-safety/the-hidden-dangers-of-big-trucks/>

アメリカで販売台数トップ3の自動車はピックアップトラックで、新車販売(商用車を除く)の5台に1台の割合だ。なかでも最も大型のフルサイズ・ピックアップは2000年以降12%も増加している。最近では全長6m近く、重量は2トンを超え、ボンネットの高さは140cmほどにもなる。前方死角の長さ(通常2m前後)をCR(コンシューマーレポート)が計測したところ、セダンより3.35m、一般的なSUVより2.13mも長かった。前方死角内の歩行者や自転車との衝突事故による死者は1990～2019年で931人、その多くが2歳以下の子どもだ。事故を起こした車の8割以上はトラックやSUVだが、歩行者検知装置を含むAEB(衝突被害軽減自動ブレーキ)やBSW(後側方車両検知警報装置)などの安全装備が、日本車以外はほとんどのピックアップト

ラックで不十分であることがCRの調査で判明した。歩行者の死亡は過去10年間で46%も増加している。犠牲者数増加とピックアップトラックの大型化は無関係ではないと考えられるが、この大型化は消費者の選好によるものだという。メーカーにとっては、比較的構造が単純で製造がしやすく高額でも売れるのでセダンより4～5倍の利益があるという。そのうえ、高燃費車税の対象外という税金面での優遇も購入の誘因となっている。

2021年、NHTSA(道路交通安全局)はようやくNCAP(新車アセスメントプログラム)を更新し、歩行者安全装備を追加する予定だ。メーカーがサイズダウンに踏み切れないなら、衝突被害を軽減する安全装備の義務化や市街地での速度制限、歩行者や自転車が安全に通行できるインフラ整備が望まれる。



## 香港

### 糖質カット炊飯器の性能は？

● HKCCホームページ [https://www.consumer.org.hk/ws\\_en/news/press/536/de-sugar-rice-cookers.html](https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/536/de-sugar-rice-cookers.html)

健康な食生活への関心が高まるなか、通常より炭水化物が少ないご飯が炊けるという糖質カット炊飯器が人気だ。炊飯途中で二重底の内釜の穴から炭水化物が溶出した水を排水し、米をすすぐことで糖質を減らせるという。HKCC(香港消費者委員会)は11銘柄の性能や消費電力などをテストした。

糖質カットと通常炊飯の両モードを備えた9銘柄の各モードで炊いたご飯100gに含まれる炭水化物の量を比較したところ、5銘柄で約10～45%低減、3銘柄では10%以下の低減、1銘柄はむしろ増えていた。実際、生米の量が変わらないと、ご飯に含まれる炭水化物の量に有意差はない。最も高い低減率を示したご飯の水分量は通常炊飯のご飯の約32%増で、その結果100g当たりの炭水化物量が低減したようにみえるだけであるとHKCCは結論づけて

いる。また、保温機能は9銘柄が65～80℃を維持して基準要件に適合したが、60℃以下でバクテリアの増殖が懸念されるものもあった。また、水を多量に使用するため消費電力量は大きい。

保健省は、米に含まれる水溶性のビタミンB群なども流出し、成長期の子どもには健康的ではないという。さらに、糖質カット炊飯器の性能は一定ではなく、糖尿病患者などはこの炊飯器に頼るべきではないと注意喚起している。医師会も、水に溶出する糖質はごくわずか(1～3%)で血糖値に影響する量ではないと否定的だ。香港栄養士協会は、ご飯を健康的に食べる簡単な近道は、一膳の分量を少なめにすることだとし、満腹感を得るためにオーツ、キノコ、豆類などを加えて炊くとよいと勧めている。



オーストリア、ドイツ

## におい対策には不向きな自然化粧品

- VKI「消費者」2021年5月号 <https://www.konsument.at/test-antitranspirants-052021>
- 商品テスト財団「テスト」2021年5月号 <https://www.test.de/Deo-Test-4708727-0/>

制汗剤もデオドラント剤も、脇汗が気になる人のお助けアイテムである。このうち制汗剤には、汗腺を収れんさせることによって発汗量を抑える成分が入っているが、デオドラント剤には入っていない。ところが、VKI(オーストリア消費者情報協会)によると、両者の違いを理解していない消費者が多いのだという。同協会は今回、男女共用の制汗剤12商品(ロールオン式9、スプレー式3)を対象に、効き目を中心としたテストを行った。

その結果、脇の下のおいを防ぐ効果は全商品で高く、10商品が「非常によい」、2商品が「よい」と判定された。一方、発汗量を抑える有効成分として、11商品にクロロヒドロキシアルミニウムが配合されていたが、ほぼ効き目がない商品もみられた。また、環境ホルモン様作用のある物質、アレルギーを

引き起こす可能性のある香料が、それぞれ過半数に含まれていた。そこで、同協会はエアロゾルの吸入を避けにくいスプレー式よりも、ロールオン式の商品がお勧めだとする。

同じ頃、ドイツ商品テスト財団もよく似たテストを行っている。こちらの対象はデオドラント剤19商品で、すべてスプレー式である。女性向けが10商品、男女共用が9商品で、そのうち5商品が自然化粧品の認証品だった。その結果、脇の下のおいを防ぐ効果が良好だったのは、7商品(女性用6、男女共用1)にとどまった。一方、「不十分」と判定されたのは3商品で、すべて自然化粧品の認証品だという。同財団は、自然化粧品の愛用者にとっては、残念な結果に終わったとコメントしている。



オーストリア、ドイツ

## 多量の砂糖が含まれるビール飲料に注意

- オーバーエスターライヒ労働者会議所ホームページ [https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testundpreisvergleiche/tests/Radlergetraenke-Viel\\_Zucker\\_und\\_Kalorien.html](https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testundpreisvergleiche/tests/Radlergetraenke-Viel_Zucker_und_Kalorien.html)
- 『エコ・テスト』年報2021 [https://www.oekotest.de/essen-trinken/Radler-Test-Wie-gut-sind-Bitburger-Becks-Co-\\_11371\\_1.html](https://www.oekotest.de/essen-trinken/Radler-Test-Wie-gut-sind-Bitburger-Becks-Co-_11371_1.html)

オーストリア、ドイツの夏の定番といえば、ビールとレモン風味の炭酸飲料を混合したラードラー(Radler)だろう。ビールと炭酸飲料の割合は、4対6または5対5という商品が多く、アルコール分は2~3%程度である。ところがEUでは、アルコール度数1.2%を超える飲料は、原材料・栄養成分表示義務の対象から外れるため、消費者が中身を正確に把握するのは難しい。

そこで、オーバーエスターライヒ労働者会議所は、市販のラードラーのエネルギー、砂糖量等について表示調査を行った。対象は容量0.5ℓ、0.33ℓの20商品(瓶・缶入り)とした。レモン風味のほか、グレープフルーツ風味、ラズベリー風味等の商品も選んだ。商品容器にも事業者サイトにも表示がない場合は、事業者に直接質問した。

その結果、1本(0.5ℓ)に角砂糖7.8個相当の糖分が含まれ、220kcalという高エネルギーの商品もあったという。1本飲むと予想以上のエネルギー摂取になるとして、同会議所は注意を促す。最終的に、4商品の砂糖量は不明のままだったという。

なお、ドイツの『エコ・テスト』にも、ラードラーのテスト結果が掲載されている。実験室で50商品の実測テストを行ったところ、砂糖量が多く、高エネルギーなのに、表示がない商品が相次いだという。一方、5商品に合成甘味料が使用されていた。その分、カロリーは低くなるが、消費者が甘味に慣れることから、望ましい解決法ではないとする。また、5商品から除草剤グリホサートの痕跡が確認されたが、健康上の心配はないとしている。